

'94 大阪文化祭 大阪新劇フェスティバル参加

五月の鷹

円卓の騎士、サー・ガウェインの女難



人形劇団  第78回公演

上演にあたって 脚色・演出 東口次登

アーサー王と円卓の騎士の物語は、登場人物がとっても魅力的で、私達が忘れかけていたロマンやロマンスの夢を抱かせてくれます。そして、イングランドではアーサーはまだ生きており、国中が不幸に陥った時、アーサーがスーパーマンのように現れ必ず救ってくれる、と信じている人がいるといわれています。

『五月の鷹』の主人公サー・ガウェインもアーサーに劣らず、「騎士の中の騎士」・「騎士の鑑」とうたわれ、「処女を守る騎士」ともいわれています。

愛と正義・名誉を重んじ、責任感の強い騎士たちは、見方を変えれば、なにがしら現代の私達が職場で一生懸命に働く姿に似ています。仕事のために健康を損なったり、恋人や家族を犠牲にしたり…。名誉や使命感・責任感のために出口のない世界に閉じ込められ、いつか自由になることを夢みている。あるいは、待っている恋人や家族と団欒することを望んでいる。グリムが出した謎『すべての女が最も求めているものは？』女性だけへの問いではなく、男性にも、いや生物すべてへの問いかもしれません。

今回の作品は、登場人物(人間)たちの欲求を主にドラマが進行しますので、人形劇的というよりは人間劇に近い素材です。表情の変わらぬ人形で、時々刻々変化する人間の心境の変化をどれだけ表現できるか？ あえて、それに挑戦してみたいと考えています。

課題多き人形劇ではありますが、中世ヨーロッパを舞台に、現代的な世界が描けたらと思っています。(1994年10月)

スタッフ

原作 アン・ローレンス
訳 齊藤倫子

福武書店刊「五月の鷹」
一九九二年二月二十五日
初版発行◎

脚色・演出 東口次登

美術 永島梨枝子

音楽 一ノ瀬季生

照明 中村純隆

舞台監督 亀井則之

制作 宮田富士雄

宣伝美術 志儀真由美

写真撮影 永島梨枝子

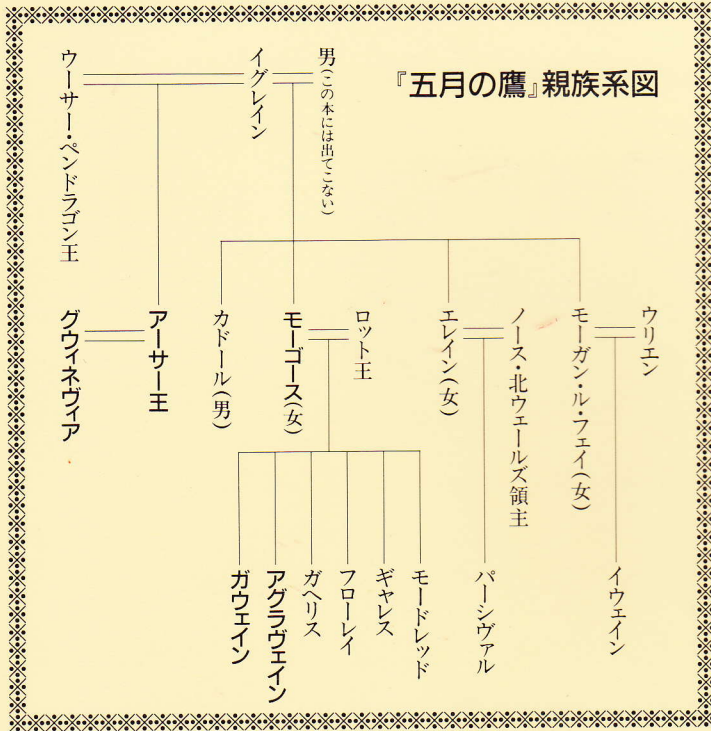
リーフレット編集 一ノ瀬季生

制作部 坂本葉子

(イラスト) 高田勉



『五月の鷹』親族系図



グドルーン

裕福な女

豊崎利子

貧しい女

平尾信江

グウィンガレット(ガウエインの愛馬) 宮岡 猛

その他

隠者・手下ども・ユニコーンなど

演奏

シンセサイザー

一ノ瀬季生

パーカッション

山口公子

山口公子^{まみこ}氏プロフィール

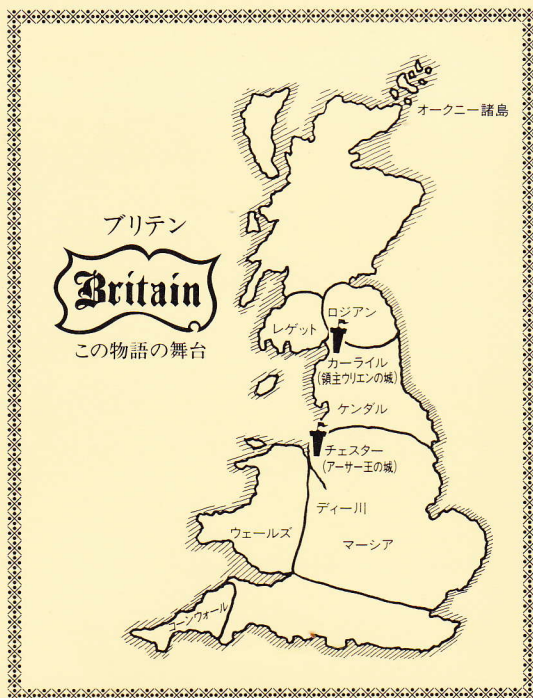
大阪音楽大学卒業。毎日国際サロンでリサイタル開催。各地の招待演奏の他、テレビ番組のBGMの録音でも演奏者として活躍。最近は炭琴(備長炭製の木琴)コンサートにも力を注いでいる。



ガウェインとブランデリス



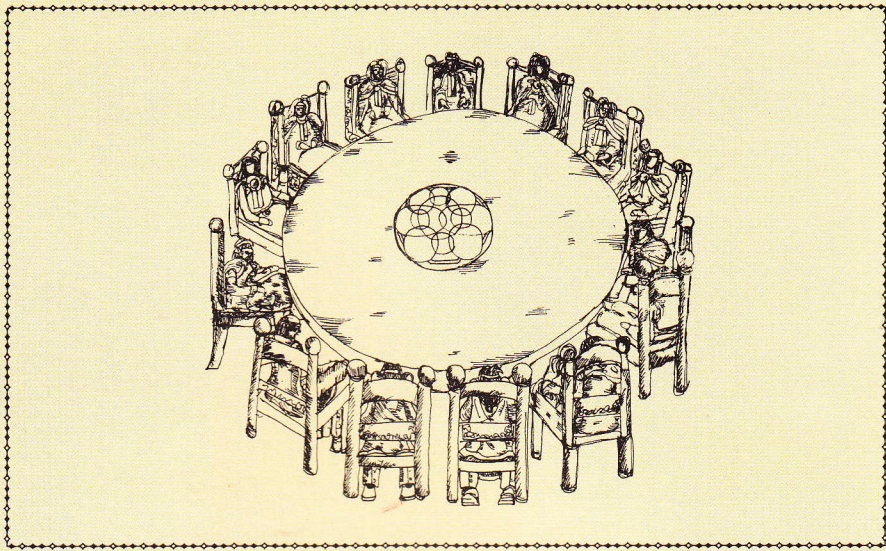
ブランデリス



*系図・地図は、福武書店刊「五月の鷹」より

配役

		ガウエイン卿(田草の騎士アーサー王の甥)	三木孝信
		アーサー王	芳川雅勇
		王妃グウィネヴィア	豊崎利子
		グリム	亀井則之
		グドルーン(グリムの娘)	鶴巻靖子
		ラグニルド(グリムの妹)	平尾信江
		ブランデリス(ガウェインの婚約者)	永島梨枝子
		アグラヴェイン(ガウェインの弟)	高田勉
		魔術師マーリン	西本武二
		モーゴース(ガウェインの母)	高圭美
		老婆	永島梨枝子
	A	娘たち	高圭美
B			鶴巻靖子
C			坂本葉子



◆円卓の起源については様々な説があるが、次の二つがよく知られている。一つは、アーサー王が騎士たちの上席を巡る争いを避けるため作らせたというもの。そして、もう一つは、グウィネヴィアが父から譲り受け、婚礼の際に持参した品だという説である。150人も人間が着席でき、直径40mはあったのではないかとされている。後の説では、キリスト教の「聖杯」と結びつけた由緒があり、キリスト教的世界観の象徴と考えられている。

あらすじ

これは、名高きアーサー王が、ブリテン島（現在のイングランド）を治めていた頃の物語である。王の円卓の騎士の中でも、「騎士の中の騎士」と称えられ、『五月の鷹』と呼ばれるガウェイン卿は、王の甥であり、彼の妻の座をねらう若い娘は多かった。

ある時、ガウェインは、旅の途中で霧にまかれ、えたいの知れない大男グリムの館へ迷いこんでしまう。一夜の宿を借りた後、ガウェインは愛馬と共にアーサー王の待つ城へ戻る事ができた。

無事の帰還と、恋人ブランデリスとの婚約を祝う席で、ガウェインを待ち受けていたのは、グリムから出された思いもかけない訴えだった。それは、ガウェインが娘グドルーンに暴行をはたらいたという、彼にとっては全く身に覚えのないものであった。

アーサー王は、ガウェインに3種類の裁きを示す。すなわち、陪審員による裁判、一騎討ちにより雌雄を決する方法、そして神聖裁判（注：ある試練に耐えられた者は、神の法の下に正しい心を持った人間だと判断する方法）である。

グリムは、ガウェインに神聖裁判を受けるよう要求し、一つの謎を解くよう言いわたした。「すべての女性が最も望んでいることとは何か？」これが、その問いであった。ガウェインは、謎の答えを探すべく、宮廷を後にして放浪の旅に出る。あてもなくさまよい、女性に出会う度に、謎を問いかけてはみるが、虚しい答しか得られない。一年間の猶予も終わりかけようとするある日、ガウェインは、一人の老婆に出会う…。

〈全一幕〉



大阪市住之江区南加賀屋3丁目1番7号
☎(06)685-5601(代) 〒559